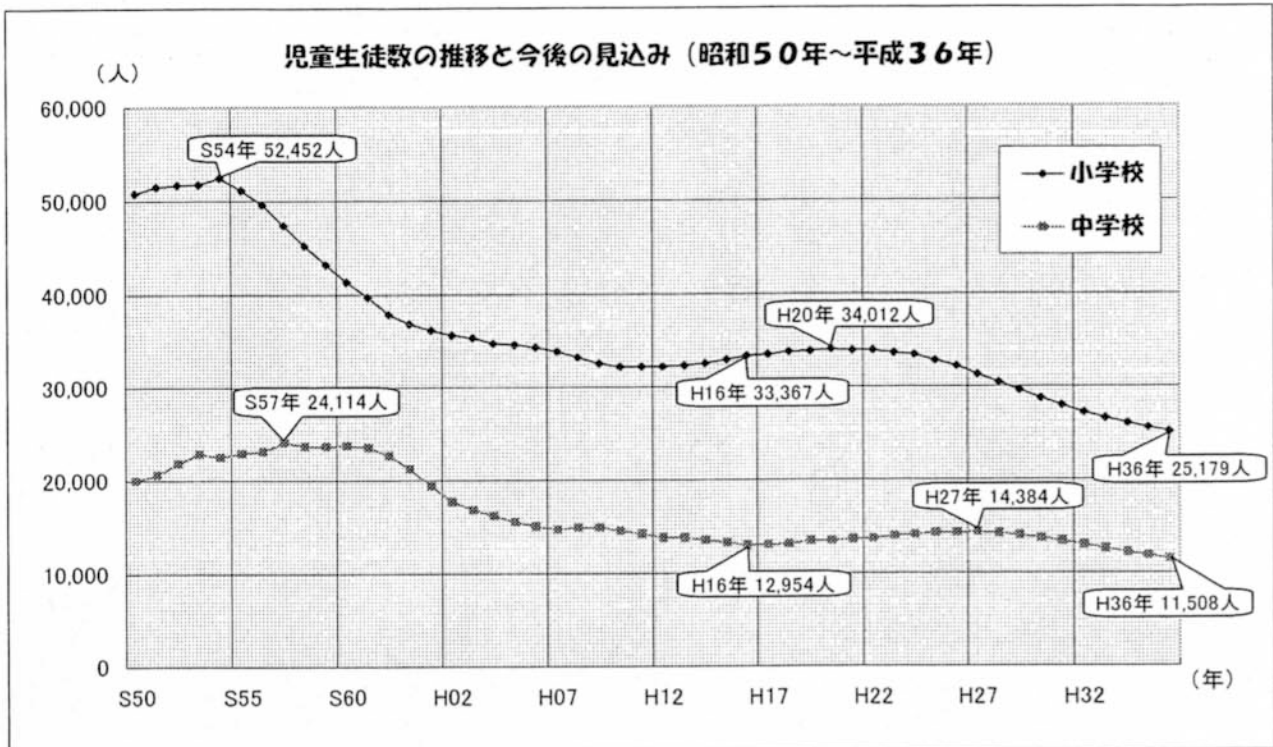


平成 21 年からは減少傾向に転じ、平成 36 年には 25,179 人とピーク時の 48.0%に推移する見込みです。

また、区立中学校の生徒数は、昭和 57 年の 24,114 人をピークに減少傾向に転じ、平成 16 年は 12,954 人とピーク時の 53.7%となっています。今後、平成 27 年までは微増傾向が続きますが、その後は減少し、平成 36 年には 11,508 人とピーク時の 47.7%に推移する見込みです。

なお、学校数は、小学校が平成 2 年に 69 校、中学校が昭和 63 年に 34 校になってから、そのままの数を維持し続けています。



※ 昭和50年～平成16年は各年5月1日現在の実数
 ※ 平成17～21年は東京都教育人口推計による推計値
 ※ 平成22～36年は、練馬区が算出した推計値

(2) 学校規模の格差

区内では、ここ数年、戸建住宅やマンション建設の増加により、児童生徒数が増えている地域がある一方、光が丘地区のように減っている地域もあります。また、児童生徒や保護者の意向に配慮した通学区域制度の弾力的運用（就学指定校の変更）の影響もあり、学校間の児童生徒数の格差が広がりつつあります。平成 16 年度では最大、小学校で 6.4 倍、中学校で 4.4 倍の児童生徒数の格差が生じています。

区 分	児童生徒数			学 級 数		
	最小校	最大校	格 差	最小校	最大校	格 差
小 学 校	144人	926人	6.4倍	6学級	26学級	4.3倍
中 学 校	165人	721人	4.4倍	6学級	19学級	3.2倍

（平成16年5月1日現在）

(3) 校舎の老朽化

区では、昭和 30 年代の中ごろから、児童生徒の急増対策のため、学校の新設や校舎の増築